

講話「プレゼンテーションは世界を開く」

日本福祉大学 影戸 誠 教授

日時 平成29年5月19日（金）

13:50～14:35

2年1・3・7組生徒117名が参加し、豊栄館2階にて講話を実施しました。

影戸先生は全国各地で高校生のプレゼンテーションを指導されており、岐阜県プレゼンテーション大会の指導も担当されています。カンボジアなど大学研究生と共に訪問し、国際福祉開発の研究をされています。小学校での勤務経験もあり、温和な口調で私たちに講話をしていただきました。

以下に講話での印象に残った事項を記します。（シート別紙参照）



- ・日本は98%が日本人。英語を使わざるを得ない状況がほとんどない。だから英会話力が高まらない。
- ・アナウンサーは1分間に250文字。
- ・英語は強弱、日本語は平たん。気持ちを込めるのが世界の基本！
- ・運は川の中を流れてくる。冷たい水の中から抱き上げるために、忍耐と温かさが必要。それがあれば花開く！
- ・プレゼンテーションはただしゃべるだけではない。相手に伝えたいことを整理することが必要。
- ・Keep It Simple and Smart
- ・まずは3枚の写真をうまく使ってプレゼンを。自分のエリア（教科）の内容を完璧に話せるようにしよう。
- ・言葉を画面に乗せなくても写真だけでうまく伝えられる。
- ・ファイルを作ることに時間をかけすぎない。構成を考えることに時間を多くかけること。
- ・アクティブリスナーも大切（グループで発表する際、話す人のそばにいる人の態度も重要）

三重県川越高校や愛知県南山国際高校の英語によるプレゼンテーション映像を見ることもできました。流暢に話す高校生の映像を目の当たりにし、本校の英語力と大きな差を感じました。しかし、この事業をきっかけにどこまで成長することができるかが楽しみにもなりました。

講話終了後、英語科職員との懇談会を設けました。

今後のコミュニケーション英語でのプレゼンテーション能力向上策を話し合い、ご助言をいただきました。